

議会ニュース

- ・ 常任委員会現地調査②
- ・ 全道議員研修会
- ・ 三重県南伊勢町議会行政視察

議会ニュース

- ・ 常任委員会現地調査①

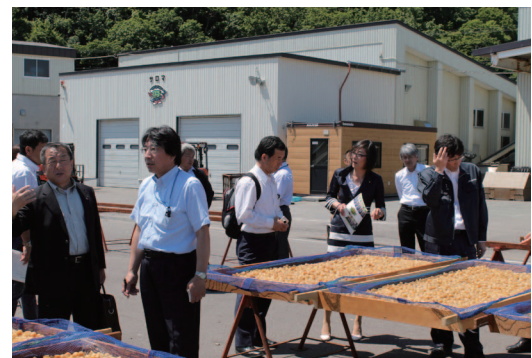


学校給食センターでの試食

また、焼却施設でのエネルギー利用として、ロードヒーティング、給湯などに活用する施設にもなっております。稼動後は、燃やさないごみとして処理していたゴム製品などの焼却も可能となり、減量化に伴い本町処分場の延命も図られると考えられます。

学校給食センターにつきましては、へき地保育所への給食提供を行っていることから、現状把握を主眼に調査を行いました。

へき地保育所への給食提供は、保護者の負担軽減、常設保育所との均衡などを図る観点から、学校給食開始日より一日当たり、若佐保育所22



三重県南伊勢町議会 行政視察のため来町

食、浜佐呂間保育所11食の計33食を提供しており、基本的に献立は学校と同じ内容となっておりますが、牛乳の提供は行われておりません。

また現在、アレルギー対応を行っている児童は、いないとのことであります。

なお、給食費につきましては、常設保育所と同様、給食費を含んだ保育料としてのことから、食材費については町負担となっているところであります。

今後も適切な管理・運営に努め、安全・安心な給食提供を願うものであります。

6月29日、三重県南伊勢町議会議員、町職員19名がホタテ養殖事業などの取組状況視察のため来町されました。

議会からは佐藤副議長、三田産業文教常任委員長、町からは川又副町長が対応しました。

南伊勢町ではヒオウギ貝の養殖を行っており、佐呂間町がホタテ養殖事業を始める際に、養殖設備の導入で協力を受けた経緯があります。



一行は漁組のホタテ加工場を見学した後、阿部組合長、村山常務から、組合の運営やホタテ養殖事業等について説明を受けました。



「治展望」との演題で外交などについて講演されました。

全道議員 研修会に参加

7月5日、札幌市で開催された北海道町村議会議員研修会に、本町から8名の議員が参加しました。

この研修会では、立正大学客員教授の高野誠鮮氏が「ひとを動かす、まちを動かす」との演題で過疎の村の復興について講演され、続いて東京新聞論説副主幹の長谷川幸洋氏が「日本の行方」政局・政

常任委員会で 現地調査を実施

産業文教 常任委員会

6月1日、産業文教常任委員会の終了後、現地調査を実施いたしました。

現地調査箇所

- ・ 物産館みのり
- ・ 学校給食センター



物産館みのり ファストフードコーナー

物産館みのりは本町の観光拠点であり、町の特産物を活用したファストフードを提供し、オホーツク観光の中間施設として機能しております。

しかしながら、ファストフードコーナーは年々利用が増加し、業務に支障をきたしていたため、国の交付金を活用し、調理スペースの拡張、レジカウンターの新設などの整備を行ったものであります。

整備によりサービス体制が充実し、拠点機能の強化が図られ、更なる利用者の増加を期待するものであります。

学校給食センターにつきましては、開設以来、安全・安心な給食の提供を目指し、学校・保育所へ一日480食程度を提供しております。

課題である地場産品の活用については、豚、牛、ホタテの稚貝、鮭、かぼちゃ、馬鈴薯、キャベツなどが使用されております。

なお農産物については、農協での取り扱い品目減少により、昨年は減額したとのこと

総務福祉 常任委員会

6月2日、総務福祉常任委員会の終了後、現地調査を実施いたしました。

現地調査箇所

- ・ 遠軽地区広域組合ごみ焼却施設建設箇所
- ・ へき地保育所に係る学校給食センター



浜佐呂間小学校のランチルームでの試食

で、今後とも積極的な活用を望むところであります。

当日は、浜佐呂間小学校において、児童・教職員との試食を行いました。

今後とも適切な運営に努め、安全な給食提供、食育の推進を願うものであります。



ごみ焼却施設の建設状況を確認する

遠軽地区広域組合で進められております、ごみ焼却施設建設事業につきましては、当初、平成29年4月の稼動を予定しておりましたが、入札不調により本体工事発注が遅れ、平成30年1月稼動に向け、工事が行われております。

ごみ焼却施設につきましては、総事業費34億4520万円、平成27年度から29年度までの3カ年の継続事業として実施されているものです。

現在は建物の基礎工事などが順調に行われており、調査時点での工事の進捗状況は約8%で、今年度については、約40%の進捗を予定しているとのことでありました。